

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	憩いの里 みずほ
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	瑞穂市横屋562-1
記入者名 (管理者)	長谷川洋子
記入日	平成 20年 6月10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>管理者、職員共に認知症対応型共同生活介護を理解しており、社内理念である、「さまざまな機会を通じて地域の人々とのふれあいを大切にする」という目標をどのように具現化していけるかなど、ホーム会議で話しあう時間を持っている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>申し送りの際、職員は社内理念をその都度唱和し、意識付けしている。ホーム会議の際にも唱和を行い、事例検討し、より良い援助を討議している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホームの運営理念が地域に理解されるよう、みずほ便りに記載し、ご家族様へは送付、地域の方へは回覧させていただいている。また、2ヶ月に1回の運営推進委員会においても、理念を伝え、その具体的なサービス内容を説明させていただいている。</p>	
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の方々及び農作業中の方へ、散歩時に声をかけ、ご挨拶をしていることなどが実を結び、お子様連れの御近所の方が来訪されるような関係性が築きあげられている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>広報は毎月配布していただき、職員及び利用者で閲覧させていただいています。みずほ便りも回覧させていただいており、地域のお祭り際には、御神輿とともに地域のお子様達が来訪して下さる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>みずほ便りを回覧していただくことによって、様々な機関があることを周知していただき、老人施設についてのご質問に来訪される方が多くなった。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>ご利用者様第一で、その人らしく快適で穏やかなシルバーライフを送っていただけるよう、コミュニケーション技術や接遇についての社内研修を受講し互いに切磋琢磨しながら、全員一体となり取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進委員会を通して、ホームの評判や、地域からの要望を知る良い機会とさせていただいている。うかがった貴重なご意見を基にホーム会議にて話し合う時間を持ち、サービスの向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村、社会福祉協議会の方から情報収集を行い、ホームの評判をきかせていただいている。内容によっては、改善策を検討し実施している。高齢福祉課や社会福祉協議会からの体験学習の受け入れなど、市町村からの依頼があればいつでも受け入れる準備がある。受け入れる準備を整えていくことで、サービスの質の向上へと繋がっていく。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業、成年後見制度は1名の方がご利用されておられる。今後、その必要性に応じて検討し、活用していくべきだと考える。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束は行わないことをすべての職員は正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。社内研修においても、高齢者虐待防止法関連法において受講することによって、再認識の機会としている。スタッフ全員が常に拘束のないケアを実践している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、わからない事が多く不安を抱いておられることを考慮し、繰り返し丁寧に説明をさせていただいている。項目毎に確認し、時間を経過しての疑問点や確認事項についても、遠慮なく質問して下さいと伝えている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様のお話しは、ゆっくりうかがう時間を持ち、ご利用者様第一で運営している。苦情などを聞いたスタッフは書面に残し、ホーム会議で話しあう時間を持っている。ご家族様の面会時、配慮させていただく点がないかの確認をおこなっている。ご意見への対応は速やかに行い、経過報告させていただいている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には、必ずホーム内での様子を伝え、話し合っている。面会の少ないご家族様へは、最低1ヶ月に1度は電話連絡をし、様子をお伝えしている。金銭管理は、おこづかい帳に領収書をつけ、ご家族様にサインをいただいている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様には、来訪時やお手紙で常に問いかけ、意見を表出しやすい雰囲気づくりを心がけている。施設内玄関に意見箱を設け、自由に意見・要望など受け入れられるようにしてある。さらには、第三者機関への連絡先のポスターを玄関に掲示している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員は、管理者に、自分の悩みや思いを常に訴えられる関係性にある。また、月に1回のホーム会議においても、悩みを共有する時間を持っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の心身の状況に応じ、業務改善を行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者様の状況により、個別対応をさせていただいている。さらに、ホーム内においては、各ユニットにこだわらず交流の機会を持っている。離職の際には、時期や引き継ぎの面で最善の配慮をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社内研修への積極的な受講を促し、勤務調整を行い、その機会を確保している。研修を受けたあとは、研修レポートにより内容の報告を行い、職員全体で知識を共有していけるような機会を作っている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者や職員は、近隣の老健が主催する勉強会に参加している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者(マネージャー、統括ホーム長)は、機会ある毎にホームを訪問し、管理者や職員の意見を直に聞き、相談にのるなど、対応策を練っている。また、社長は、会議等で前向きな気持ちで取り組めるように講話をして下さる。忘年会などの食事会を開催している。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、訪問時、常に職員への労いの言葉をかけ、優しく親身になって相談にのってくださるなど、意欲の向上に努めている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご利用者様が入所される以前での機会においては、ホームでの生活など具体的に説明し、ご本人様からの質問にも丁寧に返答している。入所時や入所されて間のない時期には細心の配慮で対応し、要望をうかがい、受け止めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初めて相談を受けた際に、ご本人様とご家族様がどのようなことを困っていて、利用が適切であるかどうかをよく話しあっている。事前面接の際、丁寧に事細かく説明し、その後質問に対し不安が解消されるまで対応する。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の際、ご本人様の状況を見極め、グループホームに適した入居対応者であるか、十分検討している。状況に応じた、情報提供をさせていただいている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際は、ホーム内の見学をしていただき雰囲気を感じていただく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常にご利用者様の人格を尊重しつつ、ご利用者様の生活のお手伝いをさせていただき、共に生活を営んでいるという認識をもった関わりをしている。日々の活動を通し、円滑な関係性を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、ご家族様との交流の時間をもち、ご利用者様を理解すると同時にご家族様の思いを理解したいと努めている。ご利用者様の状況を共通理解し、関わっていくなかで、双方が支えあっている関係性を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人様とご家族様、及びその関係性を冷静に且つ客観的に理解することで、円滑な関係性への提案が可能である。方法をご提案させていただき、良い関係性へと導いている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間関係性を職員は情報共有している。利用者間の交流を職員は見守り、状況に応じて職員が介入し会話を助けている。会話の内容が共有ができていない時などは、職員が会話を繋げていく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去の際は、十分な情報提供を行い、ご家族とよく相談の上、契約内容に基づき決定している。退去後、ご家族様からの相談があれば、迅速に対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に入居者様の思いや何をしたいか、誰に会いたいかなど、常に興味関心を持ち、教えて下さいという気持ちで会話から、引きだそうと努めている。また、人格を尊重し、利用者様本位の視点に立ち検討した援助を行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、ご自宅にうかがいご本人様、ご家族様からお話しをうかがっている。利用者様の生活歴、現在の生活スタイルを少しずつ把握したいと努力している。入所後においても、ご本人様、ご家族様から、どんな生活をされていたかを聴いている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それぞれのご利用者様の生活リズムを理解し、その時々々の表情や行動などから察知し、心身の両側面からその方の全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中から、ご本人様・ご家族様からの思いや意見を聞き、プランに反映させるようにしている。職員は意見交換を密にし、利用者様本位の個別サービスとは何かという視点からカンファレンスを行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は情報を共有し、ご本人様やご家族様の思い、要望を取り入れ、期間の終了の有無に関わらず、見直しを行っている。また、状態の変化に応じて、見直し変更を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を用意し、食事・排泄・身体状況や毎日の様子や、その日のできごと、ご本人様の言葉などを記録して、個人ファイルに綴っている。職員は、常に記録に目を通し、情報の共有を徹底している。個別記録からも、介護計画の見直しを検討している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人様とご家族様の状況に応じ、通院などの必要な送迎は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者様と地域との交流の機会が多く持てるよう、ボランティアの協力を呼びかけている。また、ご利用者様が安心して暮らせるよう、警察や消防、民生委員との交流の機会を持っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者様の状況やご希望に応じて、ボランティアの支援を利用できる体制を整えている。また、ご利用者様の希望に応じて、訪問理美容サービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度や権利擁護事業に関しては、必要だと思われる利用者様に情報を提供し、今現在1名の方がご利用されている。今後も状況に応じ必要性があれば活用できるよう支援していきたい。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様とご家族様が希望されるかかりつけ医となっている。事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療も受けられるよう、ご家族様と協力し通院介助を行っている。また、状況に応じて、往診依頼をし、常に医療機関との連携をとっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の中で相談できる認知症専門医を確保できており、受診し指示を受けている。また、認知症についての指示や助言をもらっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護を週1回受け、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に伴うリスクから早急に回避できるよう、医療機関との話し合いをし、ご家族様とも情報を交換しながら、事業所での対応可能な段階で速やかな退院支援をおこなっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、ご本人様がどうあったら良いのかを常に話し合う機会を持っている。また、事業所が対応できるケアに関しても、契約内容を基準に話しあい、ご家族様の気持ちにも配慮した支援を行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人様やご家族様のご意見、ご意向をおうかがいし、かかりつけ医と職員が連携をとり、終末期を安心して送っていただけるよう配慮している。急変時には速やかな対応をしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活の場を移された後も、環境の変化に伴う急激な変化に困惑されないよう、情報交換を行い、移動先との連携をおこなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報保護に関しては、職員全員が理解し、援助の際も心がけている。プライバシーにも気を配り、自尊心を傷付けるような声掛けや援助は行われていない。職員間でお互い気をつけるよう声をかけあっている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員は、入居者様一人ひとりの意見や要望を表出できる雰囲気や大切に、日頃から自分で決める場面や、自分で決めるような促しを行っている。職員は、本人が選びやすい場面を提供している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事の時間など1日の流れはあるが、ご利用者様の生活リズムで起床、食事摂取、入浴、入眠などしていただいている。その日に外出の希望があれば、調整し柔軟な対応をしている。</p>	
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>起床時の更衣は、ご利用者様に選択していただき、選びやすいような場面をもち自己決定していただいている。鏡に映し、一緒に選ぶなど、様々な工夫でご利用者様の意見をひきだしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニューは季節を考えたものとなっており、ホームでご利用者様方が栽培・収穫された野菜を食材に使用するなどしている。職員と利用者は、同じ物を同じテーブルを囲んで楽しく、家庭的な雰囲気や食事を楽しんでいる。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員はご利用者様の嗜好品を理解しており、日常的に気を配り提供している。誕生会や行事食を考える際は、嗜好品を考慮し、メニューを決めている。嫌いな物に関するも把握しておき、品替えし、提供している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者様それぞれの排尿間隔を把握した支援を行っている。また、尿意、便意を催した際の特徴を理解し、誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望日、時間をうかがい、入浴をしていただいている。入浴拒否をされる方に関しては、表情などから日時を考慮し、声かけや対応の工夫を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人様の生活リズムへの配慮と共に、生活リズムを整えていく取り組みも心がけている。夜間の休息が十分とれるよう、日中の活動の工夫を行っている。夜間、眠れないときは、暖かい飲み物の提供や穏やかな雰囲気での会話を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者様それぞれの得意な分野のお手伝いを依頼して行っていただいている。表情や取り組み方を観察し、できることを伸ばしていくような取り組みをしている。行事やレクにおいても同様である。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事業所での管理を行っているが、外出時や、買い物・外食へ出かける際はご自身で支払っていただけるよう、お金を手渡している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人様のその日の気分や体調に合わせて、天候も考慮し、日常的に散歩や買い物などの外出の機会を持ち、季節を体感していただいている。ご利用者様それぞれのご希望もあるので、その方の興味・関心ごとに合わせた外出を支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「一度、実家を見にいきたい」「桜を見にいきたい」といったご本人様のご要望がうかがえた時は、計画を立て、職員の勤務調整を行い実行している。遠方への希望が聞かれた際にも、実現に向け、ご家族様、職員との話し合いを行い、検討を重ねている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に応じて、電話や手紙をだせるよう支援している。電話の際は事務所内の電話を使用させていただき、会話を楽しんでいただけるよう配慮している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご面会時間は設定しておらず、ご家族様の都合に応じていつでも訪問していただけるよう配慮し、訪問しやすい雰囲気作りをこころがけている。訪問時に気兼ねなく、ゆっくり過ごしていただけるようセッティングしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、権利擁護や身体拘束に関しての知識を得て、正しく理解し、実践している。業務開始時の申し送りの際や、ホーム会議において、援助内容を振り返り、必要性を日々意識し確認している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご利用者様の表情や行動から外出をしたいか察知し、状況に応じた声かけを行っている。「どこに、なにをしにいきたいのか」など、その日、その時々のお気持ちをわかってほしい見守り・声かけの方法を工夫し、安全で自由な暮らしを支援している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、食事の準備や記録など、利用者とは過ごす居間にて行い、何かをする傍ら、さりげなく見守りを行っている。夜間は、物音に配慮し、心身の状況に合わせた巡回を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者様の状況と、安全面の両側面から検討し、厳重な管理、使用時の見守りが必要な物とで区別している。様々な状況のご利用者様が入居してみえるため、共同の生活スペースでの管理には注意を払っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やヒヤリハットを、その都度記録に残し、その防止策を日常的に検討している。そして、それらの内容から、今後予測され得る事態に関する話し合い、検討も行っている。事故発生時には、速やかな対応を行いご家族様への報告、今後の注意事項についての検討を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員は、応急手当の方法、緊急時の対応を理解し、実践している。消防署の協力を得て、救命救急蘇生のご指導をいただいている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認などを行い、職員、利用者共に訓練を定期的に行っている。		瑞穂市の災害ハザードマップに災害時要援護者施設として明示してもらい協力頂いている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族様との話し合いを十分にもち、暮らしの豊かさと安全面への配慮との両側面から検討した、状況に応じた援助に努めている。ご理解、納得いただくまで話し合いを重ね、起こり得るリスクを未然に防げるような取り組みを行っている。		
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	通常の様子をよく理解した上で、「普通」との違いに速やかに気付けるということを職員は周知しているため、普段からの利用者様のバイタルや食事摂取量やペース、顔色などの観察を行っている。何か変化があれば管理者は早急にかかりつけ医と連携を図り対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに整理し、職員はそれぞれのご利用者様の内服薬を確認、記憶している。さらに、薬効や副作用を理解し、症状の有無が把握できる体制である。処方の変更があれば、確実に把握し、症状の変化を詳細に記録し、申し送りを徹底している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の症状から薬物使用に直結するのではなく、水分を多く摂ることや繊維質の多い食材を使用した料理の工夫、適度な運動などから、自然排便を促している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアに取り組み、就寝前には、口腔ケアご義歯の方は取り外し洗浄を行っている。その都度声かけを行いできる方、介助が必要な方など様々であり、その方の状況に応じて援助している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は、日常的に観察し、個人記録に記載している。職員全員が、記録物を確認するため、その時点で、情報を共有できる。栄養バランスにかんしては、本社の管理栄養士からの献立に基づいており、過不足なく摂取していただけである。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成しており、職員、利用者共に予防を行っている。時期により流行しやすい感染症を把握し、情報を集め対策に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具などは、夜勤者が必ず消毒することになっており、チェックをして確実に実行している。冷蔵庫内の清掃にも心がけ、食材や調理済みの食料についても頻繁に点検し、処分している。買い物は、毎日行き、新鮮な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣の方々が庭先でくつろげるようベンチを設置し、プランターをおくなどし、癒される空間をつくっている。また、玄関入り口には、手作りの施設名の書かれた表札と人形を置くなどの工夫をしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある快適で穏やかな暮らしの場を提供できるよう取り組んでいる。ホーム内の飾りつけや食事のメニュー、行事などは季節を感じていただけるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には、ベンチを設置し、庭先のプランターや外の景色を眺めながら交流を楽しめる空間造りをしている。廊下や玄関の壁にはドライフラワーを装飾し、華やかで且つ心温まる演出をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や家族の写真などを居室に持ってきていただき、安心して過ごしていただけるようにしている。日用品や衣料品、雑貨の全てにおいて、使いなれた馴染みのあるものをもってきていただけるよう依頼している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	喚起は常に心がけて行っている。温度・湿度計とご利用者様の様子・意見を聞き調節しており、冷暖房は常温との差が多ならないよう5度前後で使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化を考慮し、調理台やシンクの高さ、浴室やトイレの手すりなど、利用者様の自立支援を配慮した工夫をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご本人様の状況を理解し、できることに着目し「どうしたらできるか」を考え環境整備に取り組んでいる。状況の変化に早期に気づき、迅速で的確な工夫を、職員全体で話し合い対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先のプランターに花を植えたり、畑に農作物を植えるなどの活動を日常的に行っている。庭先にはベンチがあるため、玄関先にあるイスも出し、利用者が日向ぼっこをするなどして活用している。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

運営推進会議を通して、グループホームという機関の担う役割や位置づけを理解していただけたらという強い思いを伝えられるよう、開放的な雰囲気の中開催させていただいています。その結果、近隣の方から、農作物をご提供いただいたり、ホーム内玄関先にて談笑されていたりのご理解の上での関係性が構築されてきております。ご家族様との信頼関係におきましても、実家に遊びに来る感覚で来訪していただけるような関係性を築いており、常に話し合い、相談できる機会を持っています。基盤としている考えは、常に利用者様の笑顔を守っていくためにはどうしたらよいかを一番に思い、判断しています。